

JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY



JAPANESE HEART FAILURE SOCIETY

日本心不全学会

News Letter

Vol. 8, No. 4, 2004

発行：2005年1月31日
日本心不全学会
Japanese Heart Failure Society
<http://www.jhfs.gr.jp/>

CONTENTS

1
2
3
4
6
7

日本学会事務センターの破産に関するその後の経緯ならびに新事務局（暫定）のご案内

平成16年度・平成17年度予算書

第9回日本心不全学会学術集会のお知らせ

第10回日本心不全学会学術集会のお知らせ

第69回日本循環器学会総会・学術集会のお知らせ

学術集会のご案内・関連学会のご案内

日本心不全学会組織

- 理事長
堀 正二
- 理事
磯部光章 井上 博 今泉 勉 大江 透 小川 聡 笠貫 宏 北島 顕
白土邦男 竹下 彰 友池仁暢 土居義典 永井良三 菱田 仁 藤原久義
松崎益徳 松田 暉 山口 巖 横山光宏 吉川純一
- 監事
和泉 徹 藤田正俊
- 評議員
相澤義房 麻野井英次 東 純一 安達 仁 飯島俊彦 井内和幸 池田宇一
石川利之 石川義弘 伊藤隆之 伊藤正明 和泉 徹 磯部光章 磯山正玄
一色高明 伊藤一輔 岩瀬三紀 上嶋健治 伊藤宏 井上 博 猪又孝元
今泉 勉 岩坂壽二 大内尉義 大木 崇 上田清悟 上松正朗 上床博久
遠藤政夫 大塚知明 大塚定徳 大草知子 大津欣也 大塚邦明 大塚邦明
小川久雄 小野幸彦 落合久夫 加賀谷豊 小川研一 小川 聡 笠貫 宏
梶谷定志 加藤法喜 金子 昇 川嶋成乃亮 川名正敏 川名正敏
河野 了 神原啓文 菊池健次郎 岸田 浩 木村玄次郎 北 徹 北浦 泰
北風政史 北島 顕 倉林正彦 上月正博 木村一雄 許 俊鋭 児玉逸雄 楠岡英雄
久保田徹 小西 孝 犀川哲典 佐々木達哉 澤 芳樹 砂川賢二 鷹津久登 竹下 彰 竹村元三
小玉 誠 後藤葉一 佐々木達哉 島本和明 曾根孝仁 滝澤明憲 田中啓治 鄭 忠和 中島久宣 永田正毅 野崎士郎 長谷川浩二 原 裕二 福田恵一 堀 正二 増山 理 松村忠史 三嶋正芳 宗像一雄 森下竜一 矢野雅文 山本啓二 李 鍾大

日本学会事務センターの破産に関する
その後の経緯ならびに
新事務局(暫定)のご案内

日本心不全学会
理事長 堀 正二
(大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)

すでにニュースレターVol. 8 No. 3にてお知らせ申し上げましたとおり、日本心不全学会が学会事務業務を委託してきました財団法人日本学会事務センターが、2004年8月17日東京地方裁判所から破産宣告を受けました。現在、同センターは裁判所から選任された破産管財人の管理下に置かれており、2004年9月16日には職員全員が解雇となりました。

学会名義の預金通帳は2004年9月7日に返還されましたが、会員のみなさまより振り込まれました本年度年会費の大部分が2004年8月17日の時点ではまだ預金に組み入れられていなかったため、最終損金は5,715,870円となり、未払いとなっていた日本学会事務センターへの今年度分委託費残額1,157,745円を差し引いた4,558,125円が破産債権届出額となりました。これらの被害については、管財人による刑事責任の追及を含め、他の学会と協力して対応していくつもりでございます。

なお、去る2004年9月30日に開催した理事会、評議員会において、今後の事務局業務は、暫定的ではありますが、大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学講座において継続していくことが承認されました。これに伴い、年会費の納入口座も新しく設けさせていただきましたので、今後ご送金いただきます折はご注意くださいと存じます。

引き継いだ関係資料の確認、整理を完了できていないなどの事情から、今しばらくは会員各位にご迷惑をおかけすることがあるかと存じます。できるかぎり早期に円滑に業務を遂行できるよう最大限努力いたす所存でございますので、何卒ご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

事務局(暫定)

大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
Fax: 06-6879-3639
E-mail: jhfs_secretariat@medone.med.osaka-u.ac.jp

年会費送金先

郵便振替 口座番号: 00130-7-667858
加入者名: 日本心不全学会

賛助会員一覧 (平成17年1月28日現在, 50音順)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| <p>あ
アストラセネガ株式会社
エーザイ株式会社
大塚製薬株式会社</p> <p>さ
塩野義製薬株式会社</p> | <p>た
第一サントリーファーマ株式会社
第一製薬株式会社
財団法人 体質研究会
大正富山医薬品株式会社
大日本製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺製薬株式会社</p> | <p>帝人ファーマ株式会社</p> <p>な
日本化薬株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
日本メジフィジックス株式会社</p> | <p>は
バイエル薬品株式会社
萬有製薬株式会社
ファイザー株式会社
フクダ電子株式会社
藤沢薬品工業株式会社</p> <p>み
三菱ウェルファーマ株式会社</p> |
|---|---|---|--|

(50音順, 敬称略)

平成16年度・平成17年度予算書

	平成16年度 -修正-	平成17年度
○収入の部		
会費収入	7,384,130	12,700,000
正会員会費	8,700,000	8,700,000
賛助会員会費	4,400,000	4,000,000
損金	△5,715,870	0
広告掲載料収入	2,000,000	3,000,000
雑収入	4,680,000	2,000,000
両心室ペーシング研修会共催分配金	2,680,000	0
寄付金	2,000,000	2,000,000
受け取り利息ほか	0	0
当期収入合計(A)	14,064,130	17,700,000
前年度繰越金	9,957,612	8,122,075
合計(B)	24,021,742	25,822,075
○支出の部		
刊行事業費	11,817,800	12,200,000
JCF購読料(年6回)	8,117,800	8,500,000
JCF・ニュースレター送料	1,500,000	1,500,000
ニュースレター編集制作費(年4回)	2,200,000	2,200,000
学術集会費	700,000	700,000
予稿集発行負担金	500,000	500,000
予稿集送料	200,000	200,000
管理費	3,381,867	3,350,000
学会事務センター	865,200	0
大阪大学	1,166,667	2,000,000
ホームページ委託費	200,000	200,000
会議費	500,000	500,000
通信費	300,000	300,000
印刷費	200,000	200,000
雑費	150,000	150,000
当期支出合計(C)	15,899,667	16,250,000
○当期収支差額(A-C)	△1,835,537	1,450,000
○次期への繰越金(B-C)	8,122,075	9,572,075

第9回日本心不全学会学術集会のお知らせ

第9回日本心不全学会学術集会
会長 松崎 益徳
(山口大学医学部器官制御医科学講座循環病態内科学)

この度、平成17年(2005年)10月20日～22日、海峡メッセ下関(山口県下関市)での学術集会開催に向け、鋭意準備を進めております。

心不全は心機能障害に起因して心臓リモデリングや不整脈などを生じている予後不良の疾患であります。多くの基礎、臨床両面にわたる研究から心不全の病態形成には交感神経系、RAAS系、サイトカイン、活性酸素種などの神経体液性因子が大きく関与していることが明らかとなりました。RAAS抑制薬やβ遮断薬は今や治療上必須の薬剤ですが、一方、非薬物療法の進歩もめざましく、両心室ペーシング、ICD、左室補助循環を用いた機械的治療、運動療法、温熱療法もその有効性が次第に明らかとなり心不全治療効果に期待が寄せられています。さらに新しい技術としての心血管の再生療法、遺伝子導入療法もその将来性が大きいと期待されるところであります。

一方、日本における心不全のEBMを確立し治療ガイドラインに反映させるべく、調査研究(J-CARE、J-CARD)や介入試験(β遮断薬の至適用量設定に関するJ-CHF試験や拡張期心不全の治療法の選択に関するJ-DHF試験)が1000例を超える規模で開始されています。

今回の学術集会は、"Basic Concepts and Innovative Therapeutic Strategies in Heart Failure (心不全における病態研究と先端的治療戦略)"をメインテーマにこれまで培われてきた研究成果をもとに心不全を多面的にとらえ、病態解析上の飛躍をめざす一方、臨床面では診断、治療および予防に関する最新の知識を提供することを目指しております。本学術集会の主な内容は、一般演題約200題(症例報告を含む)の発表と特別企画として、国際的に著名な外国人特別講師による特別講演3題、プレナリーセッション5題、シンポジウム3題、パネルディスカッション3題、特別セッション1題、教育講演4題、YIA審査講演、モーニングレクチャー4題、ランチョンセミナー7題、サテライトシンポジウム6題を企画しております。来日予定の外国人講師は以下の通りです。

特別講演 Cohn, JN (Univ. of Minnesota Medical Sch., USA)

Marks, AR (Columbia Univ., USA)

Tajik, AJ (Mayo Clinic and Foundation, USA)

Keynote Abraham, WT (The Ohio State University, USA)

Burnett, JC Jr (Mayo Clinic and Foundation, USA)

Calafiore, AM ("S Giovanni Battista" Hospital, Italy)

Chung, N (Yonsei University College of Medicine, Korea)

Houser, SR (Temple University, USA)

Jalife, J (SUNY Upstate Medical University, USA)

Lechat, P (Hôpital Pitié-Salpêtrière, France)

Liu, PP (The Tronto General Hospital University Health Network, Canada)

Pool-Wilson, P (Imperial College London, UK)

Schneider, MD (Baylor College of Med., USA)

Schulz, R (Universitätsklinikum Essen, Germany)

Spinale, FG (Medical University of South Carolina, USA)

Swedberg, K (Sahlgrenska University Hospital/Ostra Goteborg University, Sweden)

Towbin, JA (Texas Children's Hospital, USA)

Yu, CM (Prince of Wales Hospital, Hong Kong)

Zannad, F (Hopital Jeanne Darc, France)

本学術集会が本邦における心不全病学のさらなる発展への礎となるよう誠心誠意努力いたしたいと思っておりますので、会員の皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

第10回日本心不全学会学術集会のお知らせ

第10回日本心不全学会学術集会
会長 和泉 徹
(北里大学医学部内科学Ⅱ)

私は、この度、映えある第10回日本心不全学会学術集会を担当することとなりました。節目の時にご指名を頂き大変光栄に感じております。

慢性心不全は老年時に急増します。50歳代の発症率はせいぜい1%台であるに比して、80歳以上になると急増し、約10%の発症率に及ぶことはよく知られています。振り返りますと、わが国は1980年代以降、先進国の先陣を切って高齢化社会、すなわち本格的な長寿社会に突入しました。これは人類の新たな挑戦を意味します。しかも、第二次世界大戦で人口学的に壊滅的な打撃を受けたわが国が、一億二千万人の規模で期待余命年数80歳に及ぶ人生設計を描く挑戦的テーマを真っ先に担うことになったのです。運命的な出会いといえましょう。期待余命年数80歳は生殖活動時間の二倍に匹敵する長さであり、感覚器官や運動器官の耐用年数をも凌いでいます。従って、循環器疾患の終末像ともいえる慢性心不全の診療は、医療問題の範疇を越え、わが国における主要な社会問題になっているのは必然と申せましょう。また、慢性心不全の多くは高齢者が患います。そうである以上、これらの患者が多疾患有病者の代表例に挙げられることも避けられません。単一臓器における単一疾患を念頭においた20世紀型の診療体系から、多臓器に関わる多疾患を視野においた診療へと変容する潜在的ニーズがあるためです。これは取りも直さず、根治療法に引き続き健康管理を展望した医療戦略から、機能回復から心事故予防を展望する疾病管理型医療への質的変換と断じる次第です。また、循環器疾患の最大のリスク要因が加齢である以上、慢性心不全は多疾患有病高齢者への適切な医療対応に回答を求めるといって位置づけられています。それ故に、内蔵するそれぞれの問題解決プロセスと回答が、明日の21世紀型医療の鋳型造りを兼ねていることになるでしょう。心不全学会が10年の営みの中で培ってきた回答のひとつがここにあると推考します。

このような背景をもとに、私たちは第10回日本心不全学会学術集会の主要テーマに「心不全を予防する」を選びました。慢性心不全診療は、患者個人の負担は言うに及ばず、介助・介護にあたる家族を始めとする周囲のサポーターへの負担、あるいは経済的・人的資源を提供する社会負担をも考慮せねばなりません。そのためには、心事故による生命危機や機能回復に焦点をあてるばかりでなく、リスク患者が慢性心不全に陥らないための一次予防、心不全患者が心事故を繰り返さない二次予防を強調すべきだと主張するのです。もし効果的な方略や方策が提示できるならば、それこそ個人や家族、それに社会負担を軽減できる道が切り開けるだろうと考えるわけです。

基礎的テーマとしては、伸展刺激と心機能、心不全と老化などを取り上げようと考えています。臨床的テーマとしては、病院コホート研究や地域コホート研究での成果を取り上げるばかりではなく、生活習慣病と心不全にも言及しようと思えます。具体的には、虚血心疾患、糖尿病、肥満、メタボリック シンドローム、高血圧、腎不全、動脈硬化症などが対象となるでしょう。また同時に、現在進行中の大規模臨床試験の動向を取り上げ、その最先端の情報をも提供しようと思っています。最後に、試みとして今世紀初頭には方向性が定まるであろう慢性心不全の疾病管理の在り方についても事例研究を通じて議論できればと意図しています。

慢性心不全診療は集約的・集学的医療の典型例です。多数の職種が参加・共同し、あらゆる学問成果を動員して患者中心の医療を展開せねばなりません。そういう意味合いから、第10回から

コメディカル プログラムを新たに設け、看護師、臨床工学士、薬剤師、栄養士、理学療法士、ケースワーカー、介護士諸氏の参加を広く呼びかけ、慢性心不全診療に関わるチーム医療の学術集会を開催し、実り多い実用的成果を得たいと考えております。是非、皆様方多数のお知恵を拝借し、また多数の方々のご参集を心からお待ちしております。

開催日：平成18年10月13日(金)～15日(日)

開催場所：都市センターホテル(東京都千代田区平河町)(予定)

第69回日本循環器学会総会・学術集会のお知らせ

第69回日本循環器学会総会・学術集会
会長 山口 徹
(国家公務員共済組合連合会虎の門病院)

第69回日本循環器学会総会・学術集会は2005年3月19日～21日にパシフィコ横浜で開催されます。「心はひとつ!プロフェッショナルが手を携えて社会へ貢献」をテーマに2168題の一般演題と会長講演、美甘レクチャー、真下記念講演、6つの特別講演に加えて、シンポジウム13セッション、プレナリーセッション6セッション、ラウンドテーブルディスカッション、コントロールバーシ、ミート・ザ・エキスパート、モーニングレクチャー、コメディカルセッション、前日のライブデモンストレーションなどさまざまなプログラムを予定しています。また、例年より多くの共催セミナー(ランチョンセミナー、ファイアサイドセミナー)も予定されています。

第69回日本循環器学会総会・学術集会全体の特色は、テーマにもうたわれているようにコメディカルとの協力を前面に出し、コメディカルセッションに十分な時間とスペースを割いたこと、アジアの研究者に発表していただく機会を与えるため十分なトラベルグラントを用意したこと、市民に対する働きかけにも力を入れ、例年の公開講座に加えて、循環器専門医のボランティアによる健康相談を3日間をとおして予定したことなどです。

これらのプログラムの中で心不全は虚血性心疾患、電気整理とならんで学会全体の中心的なテーマとなっています。とくにプレナリーセッションでは拡張不全(diastolic failure)をテーマに心不全領域の大御所であるTufts-New England Medical CenterのDr. Marbin A. Konstamをco-chairmanとし、Cleveland Clinic FoundationのDr. Mario J. Garciaも演者に迎え、拡張期心不全の臨床を中心とした講演が行われます。プレナリーセッションとしてはもうひとつ京都大学心臓血管外科、米田正始教授とToronto General HospitalのDr. Michael Borgerの座長による「弁膜疾患の診断と治療：心不全をきたした重症弁膜疾患の集学的治療」も予定されています。心不全のFeatured Research Sessionも組まれており、GoteborgのSahlgrenska University HospitalのDr. Ake Hjalmarsonがβ遮断薬治療に焦点をあてたKey Note Lectureを行う予定です。このセッションでは心不全に関する分子生物学から再同期療法まで広い範囲にわたる心不全の優れた演題の発表が行われます。Featured Research Session以外にも心不全の基礎、臨床に関する多くの一般演題(心不全のセッションとして日本語あるいは英語の口述およびポスター計157題)が3日間にわたって発表されます。さらにモーニングレクチャーでは「心不全に対する運動療法」、「慢性心不全におけるβ遮断薬の使い方のコツ」、コントロールバーシでは「心不全治療の第一選択：ACE阻害薬かARBか?あるいはβ遮断薬か?」が予定されています。またミート・ザ・エキスパートでは「慢性心不全に対するCRT療法の現状、問題点と今後の展望」や慢性心不全に伴う睡眠時無呼吸の酸素療法に焦点をあてた「慢性心不全に対する酸素療法」などのセッションが組まれています。睡眠時無呼吸と心不全に関するセッションはトピックおよび共催セミナーにおいても複数が予定され、このテーマに対する関心の高さがうかがわれます。共催セミナーではその他にも心不全をテーマとしてセッションがいくつか予定されています。

学術集会のご案内

第9回

会 期： 2005年10月20日(木)～22日(土)
会 場： 海峡メッセ下関
会 長： 松崎益徳(山口大学器官制御医科学講座循環病態内科学)
メインテーマ： 「Basic Concepts and Innovative Therapeutic Strategies in Heart Failure
(心不全における病態研究と先端的治療戦略)」
事務局： 山口大学器官制御医科学講座循環病態内科学(矢野雅文)
〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1
Tel: 0836-22-2248 Fax: 0836-22-2246 E-mail: ninaigim@yamaguchi-u.ac.jp

第10回

会 期： 2006年10月13日(金)～15日(日)
会 場： 都市センターホテル
会 長： 和泉 徹(北里大学医学部内科学Ⅱ)
メインテーマ： 「心不全を予防する」
事務局： 北里大学医学部内科学Ⅱ
〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1
Tel: 042-778-8527/042-778-8802 Fax: 042-778-8441

関連学会のご案内

第23回日本心臓移植研究会学術集会

会 期： 2005年2月26日(土)
会 場： アクトシティ浜松
当番世話人： 数井暉久(浜松医科大学第一外科)
連絡先： 浜松医科大学第一外科(鷺山直巳)
〒431-3192 静岡県浜松市半田町1-20-1
Tel: 053-435-2868 Fax: 053-435-2869 E-mail: nwash@hama-med.ac.jp

第69回日本循環器学会総会・学術集会

会 期： 2005年3月19日(土)～21日(月・祝)
会 場： パシフィコ横浜
会 長： 山口 徹(国家公務員共済組合連合会虎の門病院)
テーマ： 「心はひとつ!プロフェッショナルが手を携えて社会へ貢献」
事務局： 国家公務員共済組合連合会虎の門病院(百村伸一)
〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
Tel: 03-3505-5872 Fax: 03-3505-5873 E-mail: jcs69@convention.co.jp

第53回日本心臓病学会学術集会

会 期： 2005年9月19日(月・祝)～21日(水)
会 場： グランキューブ大阪[大阪国際会議場]
会 長： 堀 正二(大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)
テーマ： 「The Heart for the Heart」
事務局： 大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学(山本一博)
〒565-0871 吹田市山田丘2-2
Tel: 06-6875-5623 Fax: 06-6879-3639 E-mail: 53jcc_secretariat@medone.med.osaka-u.ac.jp

第22回国際心臓研究学会日本部会総会

会 期： 2005年12月15日(木)～17日(土)
会 場： グランキューブ大阪[大阪国際会議場]
会 長： 堀 正二(大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学)
事務局： 大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学(山本一博)
〒565-0871 吹田市山田丘2-2
Tel: 06-6875-5623 Fax: 06-6879-3639 E-mail: 22ishr-japan@medone.med.osaka-u.ac.jp